

あんしんして 暮らせるまちを 目指して

中学生記者が
取材しました!

Let's
頑張ろう!



北区では、地域の高齢者が安心して生活できる環境をつくらうと、町内会などがさまざまな取り組みを行っています。今回は、3人の中学生広報記者がその様子取材しました。



声掛けをする黒田女性部長（左）と春原社会部長（中）

「最近お変わりありませんか？」
玄関先で声を掛けるのは篠路五ノ戸町内会（春原良三会長）の皆さん。地域の高齢者世帯を訪問し、体調などに変化がないか尋ねます。「高齢になるとどうしても外出が減り、周りとのつながりも薄れてしまいます。直接訪ねることで、ちょっとした変化も見逃さないようにしています」と話

独りにさせないために

声掛けで地域をひとつに

すのは、黒田女性部長と春原光子社会部長。高齢者の孤立を防ぐ活動をしています。

地域を包む安心感

この日は、3軒の高齢者世帯を訪問しました。「声を掛けてもらうと地域の方に見守られていることが実感できます」と、皆さん教えてくださいました。

「地域の方を見かけたらいさつをする。当たり前のことの積み重ねで、活動に対する理解が得られました」と、



笑顔の秘密を発見
篠路五ノ戸町内会の方々は「見守り活動」とは呼ばず「声掛け活動」と呼んでいます。「お互い声を掛け合って元気を分けてもらっているんだよ。だから見守り活動とは呼ばないんだよ」と教えてくれたのは春原会長。皆さんの笑顔の理由を見つけました。この「声掛け活動」が町内会行事に参加するきっかけになるなど、思わぬ効果もあったそうです。



声掛け活動を取材する見込記者（右）

笑顔で話す町内会の皆さん。そこには、地域を包む安心感がありました。